

ゆめクラブ鎌倉 会員広報紙



第58号

発行

鎌倉市老人クラブ連合会
 発行人 大久保安夫
 編集人 都筑 健一
 門田 京蔵
 山本 照子
 〒248-8686
 鎌倉市御成町18-10
 鎌倉市老人クラブ連合会
 (愛称・ゆめクラブ鎌倉)
 ☎(0467)61-3930



段 葛

印刷 (株)博報社 大阪市平野区喜連西4-6-69 ☎(06)6797-0212



かまくらびとに聞く

(株)かまくら春秋社 代表
 関東学院大学 人間環境学部教授

伊藤 玄二郎 氏

今回の「かまくらびとに聞く」は、(株)かまくら春秋社代表・伊藤玄二郎氏を迎えることができた。氏が発行人を務める文芸タウン誌「かまくら春秋」は、昭和四十五年創刊から現在まで、鎌倉の歴史、文化、風情、情報をまさに絶妙な配分で掲載、しかも手のひらにじっくりくるサイズがありがたい。

今なお読者の心を掴んで離さない「かまくら春秋」に、我々の『やまもも』も大いに学ばせていただくという思いと、伊藤氏がちょうど団塊世代の当事者であるので、この世代の本音も聞いてみたい。そしてもう一つ、河出書房編集者時代からの鎌倉文士とのエピソードもつかうかという...など、あれもこれもと頭の中がはち切れんばかりの思惑を抱えて、いざ春秋社へと向かったのである。(対談者 都筑 門田)

変わらなくちゃ老人クラブ 高齢者パワーの活用



取材のもよう

2007年から、みなさんで
 老人クラブのイメージを
 変えてみませんか?

ゆめクラブ鎌倉オリジナル番組

「鎌倉 元気のススメ!」

2007年6月1日スタート!!



鎌倉ケーブルテレビにて1日2回放映決定

① 8:30 ~
 ② 22:40 ~ (月火水木)・22:30 ~ (金土日)

二〇〇七年から、鎌倉でも定年を迎えた団塊の世代の方々が第二の人生に踏み出し、地域に戻ってきます。私たちゆめクラブ鎌倉は二〇〇七年は会を活性化するためPRの年と捉え、このたび新

事業として六月から鎌倉ケーブルテレビと新番組「鎌倉 元気のススメ!」を共同制作、放映することになりました。内容は会員が参加するイベント等をいち早く鎌倉ケーブルテレビが取材、情報提供番組として五分間放映します。内容は定期的にゆめクラブ鎌倉の専門部会の会員

と鎌倉ケーブルテレビとで協議し、高齢者のニーズにあった番組ができるようになります。この番組を通じて新たな会員加入を呼びかけ「生きがいづくり、健康づくり」を発信していきます。

また、この番組を地域社会との架け橋とし、会の活動を支えてくれるボランティアスタッフも募集する予定です。

やまもも58号主な も く じ

- 2面 伊藤玄二郎氏インタビュー
- 3面 加入増強へのひと工夫
- 4面 鎌倉ゆかりの人・小林 勇
- 5面 ゆめクラブ鎌倉の動き
- 7面 鎌倉市・足利市老連姉妹都市交流会
- 9面 鎌倉海濱ホテルを憶う
- 10面 会員投稿コーナー
- 12面 鎌倉散歩、やまももさん

鎌倉市の人口175,902人 高齢化率(65歳以上)全市25.2%(地区別※ 鎌倉地区7.7%、腰越地区4.3%、深沢地区4.9%、大船地区5.4%、玉縄地区2.9%) 平成19年3月末日現在 ※市全人口に対する割合
 鎌倉市老連会員数4,001人(地区別 鎌倉地区1,416人(35.3%)、腰越地区465人(11.6%)、深沢地区706人(17.7%)、大船地区827人(20.7%)、玉縄地区587人(14.7%) 平成19年3月末現在
 ★鎌倉市老連ホームページアドレス <http://www.kamakura-rouren.jp/> ★メールアドレス info@kamakura-rouren.jp ◎数字は住民基本台帳をもとにしています



七十歳はまだ「子ども」

河出書房に入社してすぐ、鎌倉住まいということから、近くに住む文壇の大御所、里見弴、小林秀雄、永井龍男等への作家まわりを命じられた。大学を卒業したての二十四歳の氏にはまさに試練で、中でも気難しいことで有名だった里見弴宅に行った際、『ぼくの作品を読んだことはあるか』と問われた時の緊張感は今でも忘れられない。

「実は、何う前に作品を読んでいこうかとも考えましたが、この期に及んで付焼刃だとよけいに先生に失礼だと思つて、全く読んでいきませんでした。それで先生に『読んだこともないし、里見弴のお名前も今まで知らなかった』とお答えしました。すると先生は『正直でいい』と言つて、以来随分とかわいがつてもらいました。」

この時の里見弴は八十を超えていたが、永井龍男がのちに伊藤を「里見さんのうちの人」と評したほど編集者の立場を離れ私淑した。弴は懐にとびこんできた伊藤を息子のように導いた。とりまく文士たちの中にあつて、彼は「末

座の幸福」を味わい、これを糧として「文芸タウン誌」を着想する。そして古都鎌倉にたゆたう贅沢なゆとりと、鎌倉文士たちの流れを巧みにとりこんで無料地域情報誌とは趣きの違うユニークな雑誌を送り出したのだ。

弴の晩年のエネルギーが仕事ぶりを見近に見ることができたが、当時一〇四歳だった里見の姉の高木志満子さんの言葉が忘れられない。

「七十歳はまだまだ子ども」といわれたが、これから年を重ねていく私にとつても大変励みになる言葉だ。ゆめクラブの皆さんも志満子さんのように凜として年にこだわらず若い世代の大きな目標であつてほしいのです。」

こだわりの持ち

付加価値をつける

昔、老人クラブが隆盛を極めたのは、「ミニユニケーションが図れる唯一の場所であり、心の拠り所だったから。しかし、今は情報があふれて一人でも寂しくない、個人が個人で成り立つ時代になった。老人の大衆化というか、それは組織にあつてもしかりで、大衆化が押し寄せている。そんな時代の中で老人クラブはどう生き残るか。

「組織というのは長く保つことも大切ですが、賞味期限というものもある。無理して引っぱらずに、時代の流れに沿つて一度無くしてみるのもいい。ゼロから改めてパッケージし直すのもいいのではないかと思います。ただ、今も老人クラブが会員の心の拠り所であるのも事実。あせつて無

に帰すというのではなくて、本当にやりたいこと、楽しいことにこだわりの持てば、それをやりたい人や楽しいと思う人が集まってくると思いますが、こだわった活動で付加価値をつける、さらにそれが文化的価値を持つものなら、なおさらいいのではないのでしょうか。」

そういう伊藤氏が今こだわっているのは、建長寺で毎週土曜（十時～十一時）に開催している『親と子の朗読会』。建長寺と伊藤氏らがつくる NPO 法人「日本語の美しさを伝える会」との共催で平成十七年一月二十二日からスタートして、昨年十二月十六日の開催で百回を迎えた。

「ゆとり教育の弊害を埋めたいという思いから始めました。朗読会は、まず般若心経を唱えてから座禅を組む。女優の牧三千子さんの名作朗読があり、私の解説、お寺のお供物をいただくという行程です。下は二歳から上は八十歳くらいの幅広い世代が参加されます。朗読を聞いている子どもたちの表情が実にいいです。」

「美しいことば」を使うことで豊かな心とからだを育む。それが今の子どもたちには必要だという伊藤氏。なるほど、美しい日本」という前に、美しいことばに触れて、使えるようになることが先決なのだ。

だから隔月発行の「星座」（株）かまくら春秋社発行の「コンセプトは『改めて日本語のあり方を問い直す』は、自身が編集発行人を務める。そしてもうひとつのこだわり

が、天台声明（しょうみょう）。声明とは真言や経文などに節をつけて唱える仏教儀式の伝統的音楽曲で、五～六世紀に仏教伝来とともに日本に伝えられたもの。

「直木賞作家の永井路子さんに声明を教えていただいたのがきっかけです。昨年、もう七年になります。昨年、ヘルシンキで行われた天台声明のイベントでは、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」と声明をコラボレートさせて大変好評でした。声明はいろんなジャンルの音楽ともコラボできるし、無限の可能性を秘めています。音楽に国境はないことも教えられました。」

偉大なマンネリ

ゆずれない核をもつ

「かまくら春秋」は創刊以来多くの人に愛読され、この四月で四四四号を発行した。表紙のデザイン、氏の対談や座談会記事、連載エッセイやグラビアなど多岐にわたる内容だが、それが心憎い配分で、しかも丁度いい頃合で「鎌倉の匂い」を漂わせているのが魅力なのだろう。

「かまくら春秋」の編集の原点は、隣の人に読みたいと思つてもらえる雑誌づくり。読んで納得してもらえるタウン

誌を目指しています。それと、東京までの約一時間の車内で読み終える分量というのがコンセプトです。そこでさまざまな企画を考えるわけですが、新鮮な企画と『変わらない企画』が必要になります。もちろん何を『変わらなない企画』にするかが大きな問題ですが、かまくら春秋にはそれが二～三本あります。いい意味で、偉大なマンネリです。」

ゆずれない核を持つということだろう。それは『やまもも』の編集だけでなく、単位や地区、市老連全体のクラブ活動についても言えそうだ。これだけはという信念にも近い、ゆるぎない核をもつことが必要なのだ。

核を持つには徹底した吟味も必要だし、その核についても、まず自分たちが『楽しい』とか『ワクワクする』などの感情が持てるかということも当然必要。しかし核を決めたら、迷わず最後まで楽しんでみる。それが、偉大なマンネリなのだ。

伊藤氏を通じて、団塊世代はこだわりの持つ年代であることもわかった。この世代への加入促進についても、大きなヒントをいただいたようだ。

伊藤玄二郎 氏 プロフィール

いとうげんじろう 1944 年鎌倉市生まれ。中央大学法学部政治学科卒業後、河出書房に入社。里見弴、小林秀雄ら鎌倉在住の作家を担当。1970 年（株）かまくら春秋社を設立（代表に就き現在に至る）。1988 年日本ペンクラブ会員。1991 年日本ポルトガル協会会員。関連会社（株）人間社を設立（代表に就き現在に至る）。1998 年ポルトガル国立リスボン工科大学客員教授（現在に至る）2002 年関東学院大学人間環境学部教授（現在に至る）2004 年エンリケ王子勲章コメンダートル章叙勲（ポルトガル政府より）主な著書に「風のかたみ」「末座の幸福」、編書に「父の肖像」などがある。

加入増強へのひと工夫

魔法のことばとは?!

県老連 進む加入促進への動き

県老人クラブ連合会では、平成十七年の八月から、老人クラブの活性化と加入促進について、専門委員会をもち、この永遠ともいえるテーマに取り組むこととなりました。専門委員会では、まずその価値を認めながら、なぜ会員が減少、クラブの解散が進んでしまつのかなど、多くの議論がなされ、課題の整理を行っていきま

当面の課題は六つ

これより以前には、県老連機関紙「ゆめジャーナル神奈川」でも、平成十六年四月から「かわらなぎや老人クラブ」のシリーズを開始。専門委員会は七回の協議と様々な情報を得る中で、課題を①リーダー ②クラブ活動の内容 ③経営(財政) ④活動の拠点と範囲 ⑤広報 ⑥地域団体との連携の六つにしました。

原理原則は「楽しいこと」

私は、個人的に極言すれば課題解決は結局老人クラブが楽しいか否かと思いました。参加して、人のお世話をして、仲間といふから楽しい…。

老人クラブの活動の全体像に、二本の柱があります。生活を豊かにする楽しい活動と、地域を豊かにする社会活動です。二本の柱は実に上手にできてはいるのですが、それぞれが「楽しい」とい

それが案外大切なことだと思うのです。

「手伝って」という魔法のことば

さて、今年、団塊世代が老人クラブ加入適齢期ですがなかなか加入してはくれません。ここがっかりせず、魔法のことばが老人クラブを救います。老人クラブで実際行事を行うときに団塊世代もふくめ未加入の若い世代に向かつて「こちら年も年取って体もしんどい。手伝ってくれないか」というのです。「老人クラブにはいいなにか」ではありません。困っていればこれも人の情。サポーターはかなり期待できそうです。こうして、老人クラブ加入の種は時かれます。そのため、日常的にそれ以前に自分が無理せず楽しんでやること、たとえば隣近所の「あいさつ」などがあります。何かできそうな気がしてきませんか。

市老連 地域ごとに即した活動や新しい行事の開拓が課題

平成十七年十一月の第一回から以後、隔月に委員会を開催してきました。

第一回の委員会では、青池県老連総務課長を招き、広い視野からの県内各老人クラブの現状、年間行事、会員減少への対策、さらには近づく団塊世代との交流などについて、貴重な情報が寄せられました。

「ゆめジャーナル神奈川」を通して入る情報を基本として、地域に即した運動、行事を開拓することは私たちの課題だと感じました。

各地区長からの状況報告の中から、活発な活動を展開する単位クラブの報告がありました。これらのクラブをモデル地区に決定、今後のあり方の指針になっていたことがうなづきました。

◎活性化モデルクラブ

「加入増強」推進事例

大分県別府市

◆新しい企画をどんどん取り組む

年一回行っていた歩こう会の企画を変更、「防犯パトロール歩こう会」という新しい企画を打ち出した。これが会員の人気を集め、会員増強と会の活性化につながった。

また、野菜や花を育てたいという会員の声に応じて、休耕園(九百坪)を会員限定の「お楽しみ農園」にした。中には野菜づくりがしたいために会員になった人もい

楽しい農園を軸にした友愛活動としても広がっている。

その活力源は、役員や班長が集まって頻繁に行われているという「サロン」にある。何でも話し合える心の拠り所、こうした場所づくりも会の活性化には欠かせない要素だろう。発想の転換、企画の勝利である。

◎加入促進には、①役員の協力と地域の方との連携 ②会長の熱意 ③会員主体の魅力的な活動が必要である。そしてなにより、会長自身が自分のクラブを「楽しむ」事が一番大切なのでは?

・腰越地区西鎌倉親寿会
会長 佐々木俊文

・深沢地区寺分楓会
会長 大野 秀夫

・玉縄地区坂本町喜楽会
会長 加藤 好雄

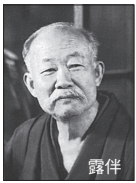
会員増強は、打って一丸となり行う不断の努力です。地域に密着した行事への参加、コミュニケーションの継続などが結果するのかと思います。「テレビ」の活用、「やまもも」の活用、ゆめクラブの行事への参加をはじめ、これからも開かれた老人クラブとして行事を開催していきたいと考えています。

不屈の人・日本の代表的町人

― 岩波書店の大黒柱

小林勇の生涯 ―

二階堂白寿会 門田 京蔵



岩波写真文庫

鎌倉文士には二人の小林がいる。評論の神様秀雄と出版人でもあった随筆家、冬青小林勇である。昨年十一月から正月にかけて、県立近代文学館で「露伴・茂吉・寅彦と小林勇展」一本の道 ある出版人の軌跡」があった。期間中に長女小松美沙子さんと、露伴の孫娘青木玉さんの感慨深い記念講演があり、「やまもも」に小林勇について書くことと決断した。そして一カ月半かかって、全著作二十冊を読み返したのだ。

小林勇（1903～1981）は、明治三十六年長野駒ヶ岳の裾、赤穂町の三十代以上続く農家に、四兄二姉一妹の五男として誕生した。大正七年小学校卒業後、一年実業学校に学び、自ら「生涯学歴ナシ」と称し学歴尊重の連中を笑う姿勢を示した。

卒業後農事に専心したが、四兄や友人の影響で武者小路実篤・白樺派・啄木に親しみ上京を望んだ。長兄がそれほど本が好きならばと、岩波書店に二人で飛



岩波茂雄（1881～1946） 岩波書店の創業者。長野県諏訪郡中州村（現・諏訪市）生まれ。東京帝国大学哲学科選科を卒業後、教職を経て 1913 年に古書店・岩波書店を開業。翌年夏目漱石『こゝろ』を処女出版として書店の事業を本格化した。

び込み、店主岩波の三十分ほどの面談で入店を許される。岩波四十歳、勇十七歳。勇の入店した創業七年目でも、ほとんど小卒の店員でまだ丁稚奉公の時代であった。勇は小売・営業・出版部と岩波に殊更目をかけられ、大いなる感化を受け成長した。二十三歳の時にはただ一人の編集部員となり、露伴・茂吉・寅彦等との接渉を受け持つようになっていた。

大正末改造社の「現代日本文学全集」で円本ブームがはじまり、岩波はこの種の出版には反発したがこの流れには乗りおくれ、窮余の策として小型本にて古典名作の普及を目指す。勇は三木清とともに岩波文庫の発刊の主軸となり、併せて遺言により舞いこんだ芥川全集の編纂にも忙殺される。

こんな事情で過重労働状況の中新参の店員たちの不満がつのり、ストライキがおきて労働条件の改善の外に小林とNの即時退職が要求されたりした。

勇の退社表明には茂雄の強い反対があったが、結局半年後昭和三年茂雄の理解と援助を受け独立、露伴の命名にて「鉄塔書院」を立ちあげ

ける。それまでの豊かな人脈を活かし、その経営は苦しかったが、六年間に幅広く百八十点も刊行することができた。

この間入店時より近くで育った八歳年下の茂雄の次女小百合との愛が実る。当初茂雄は二人の結婚に反対であったが、一年後には一転して積極的に支持し祝福した。



こうして親子の関係になりながら同業他社にいることに疑問の声がこり、九年岩波に復帰する。このあと長男・長女の誕生と、寅彦の死があり、十二年寅彦全集の編纂の傍ら、彼が親族から聞き書きした初めての「回想の寺田寅彦」を刊行する。

大正六年、茂雄の家族が坂ノ下に住み、以降市内を転々とするが、昭和十三年勇一家は名越の茂雄の家に転居し、十六年扇が谷に家を建ててもらって四十三年間の彼の終の住処となった。戦時下十三年古典中心の文庫に対し、現代的教養の涵養に資するものがほしいと「岩波新書」が企画される。勇は生涯戦争絶対反対を表明し、新書にも検閲すれすれの時局への抵抗と批判が根底にあった。終戦の年中央公論・改造

がつぶされ、次は岩波と五月治安維持法違反の名目嫌疑で、勇は東神奈川警察に拘禁され尋問拷問を受け、これにはたえがたが釈放は八月末であった。直後茂雄長男雄一郎が病死し、三木清の獄死、翌年には茂雄が亡くなり、勇は支配人として名実ともに店を代表する立場となる。そして二十二年には露伴の死去となる。

二十四年店を株式会社とし、次男雄二郎を社長として、自らは専務となる。こうして戦後の広範な出版物に勇の理念は相当反映したと思われる。「文化の配達人」として出発した

茂雄の旗印も、堅実な出版物の「岩波文化」として開花結実したのではなからうか。

さて、勇を知るには、すべてが彼自身である著作物に在る。五十二歳になって、やっと長い編集者生活を回想し、随筆「遠いあしき」で露伴・茂吉・寅彦・吉右衛門等を回想し、たちまち日本エッセイスト・クラブ賞を受賞、続いて「彼岸花

（三編）」（543）「人はさびしき」（548）と親炙した人々を描く。「あの老大家たちのいきなり腹中にとびこむのが彼独特の至芸であり、ぢぢ殺し」と中野好夫が彼を評したが、勇の描く人物肖像は寔に彼の独壇場でそのつきあいの深さ・絶妙さは、義父茂雄仕込みに加えて勇の人柄がしのばれる。特に彼の人生の恩師である露伴

と茂雄の面影を写した「蝸牛庵訪問記―の晩年先生」（531）、「惜櫟莊主人―一つの岩波」（538）は、彼の自伝をも兼ね代表作である。

息子を失った直後六十歳の露伴と二十三歳の時の出会い以降、当初は二日に一度、その後も訪問の回数は驚くべき程で、幾度もの旅・岩波の惜櫟莊・勇の家冬青庵での長い滞在では彼の側にあり、すべての命名案件は露伴が名づけた。その最後には葬儀委員長もつとめその心酔と尊敬はただならぬものであった。また、勇は終生娘・文と孫・玉のよき庇護者を通じた。「一本の道」（550）では、「少しく主観を出して随筆風な自伝」を書いたが、あと美術随想・飲食記・小説（わずかに四短篇）草花記・身辺記・画集等がある。

一篇二頁千字という縛りで書いた二百篇（「小閑」（535）「竹影」（540）は絶品であり、「山中獨膳」（546）「厨に近く」（563）は軽井沢山荘での独自の自炊生活に孤独の影が垣間みえる。彼は十七年頃より身辺の草花静物を主に写生して絵筆をとることに情熱を傾け、この文人画では、画人冬青として一家をなしたと思われる。また美沙子さんの滞米中には、百二十枚の絵手紙を送り、

先般の展示物の中でも目をひいた。帰国後「懐遠」と勇は題字を書いて桐箱に納め、彼女の誕生日にプレゼントした。展示会中、美沙子

と茂雄の面影を写した「蝸牛庵訪問記―の晩年先生」（531）、「惜櫟莊主人―一つの岩波」（538）は、彼の自伝をも兼ね代表作である。



薔薇・李朝鉄砂壺 一九八〇年

※勇の著作は古書店でよく見かける。中央図書館には主要なものと「文集11巻」と「回想」がある。

鎌倉市老人クラブ連合会(平成19年度)の動き

| 日 程 | 行 事 名 |
|-----------------------|------------------------------|
| 4月4日(水)～6日(金) | 市老連春期研修旅行(和歌山・白浜) |
| 4月11日(水)～26日(木) | いきいきノルディックスポーツ |
| 4月27日(金) | 平成19年総会(鎌倉生涯学習センター) |
| 5月17日(木) | 歴史探訪 |
| 5月18日(金) | 足利市老連交流研修会 |
| 5月20日(日) | 機関紙「やまもも第58号」発行 |
| 6月20日(水) 雨天の場合22日(金) | グラウンドゴルフ大会(笛田公園広場) |
| 6月27日(水)～29日(金) | 市老連研修旅行 |
| 7月2日(月)～5日(木) | 第43回老人大学寿講座(レイウェル鎌倉) |
| 9月2日(日) | 福祉バザー |
| 9月5日(水)～7日(金) | 市老連秋期研修旅行 |
| 10月7日(日) | 鎌倉銭湯寄席 |
| 10月3日(水)～11月10日(土) | ダンス講習会(武道館) |
| 10月10日(水) | 講演会 |
| 10月15日(月) 雨天の場合16日(火) | 横須賀三浦ブロックスポーツ大会 |
| 10月18日(木) 雨天の場合19日(金) | グラウンドゴルフ大会(笛田公園広場) |
| 11月6日(火)～12日(月) | 第35回高齢者の趣味の作品展(大船第一・第二・玉縄地区) |
| 11月9日(金) | 功労者のつどい(鎌倉生涯学習センター) |
| 11月22日(木) | 芸能大会(レイウェル鎌倉) |
| 11月25日(日) | 機関紙「やまもも第59号」発行 |
| 11月26日(月)～28日(水) | 市老連研修旅行 |
| 12月7日(金) | 年末慰問 |
| 1月9日(水) | 新年賀詞交歓会 |

第43回老人大学寿講座予定表

| 開催日 | 時 間 | 演 題 | 講 師 |
|---------|------------|----------------------------|-------------------|
| 7月2日(月) | 9:30～11:30 | 良寛さんと一茶の生きざま | 文芸評論家 尾島 政雄氏 |
| 7月3日(火) | 9:30～11:00 | 高齢者の年金問題、そして皇室のお話について | フリーアナウンサー 久能 靖氏 |
| 7月4日(水) | 9:30～11:30 | 世界遺産登録を目指して 武家がはじめて造った政権都市 | 世界遺産登録推進担当 玉林 美男氏 |
| 7月5日(木) | 9:30～11:30 | さあ元気に歌おう、あの歌、この歌! えっ、新しい歌も | うたごえの店ともしび 加藤 晴夫氏 |

地域出前講座「いきいき健康体操講座」(平成19年度)

| 地 区 | 開催場所 | 開催日程 | 定員 |
|------|------------|--|----|
| 鎌倉第二 | 稲村ヶ崎小学校 | 6/2, 6/9, 6/16, 6/23, 6/30 (毎週土曜) | 30 |
| 深 沢 | 深沢生涯学習センター | 6/5, 6/12, 6/19, 7/3, 7/10 (毎週火曜) | 30 |
| 鎌倉第三 | 大町自治会館 | 10/7, 10/14, 10/21, 10/28, 11/4 (毎週日曜) | 30 |

※会員以外の方の募集は、市広報でお知らせいたします。

◆その他近日開催予定の行事

5月20日(日) 第5回世代ふれあいの会開催
(鎌倉市立深沢中学校体育館) 13:30～
10月4日(木)～11月1日(木) 毎週木曜日
水中ウォーキング
(山崎こもれび温水プール) 14:00～

平成19年 鎌倉市老連総会を開催



新緑の香りが漂う緑の日に先だって、四月二十七日、平成十九年鎌倉市老人クラブ連合会総会が生涯学習センターで開催されました。大久保会長あいさつ後、佐々木俊文氏が議長に選出され、議事に移りました。平成十八年度事業報告、収支決算報告に続き、平成十九年度事業計画案、予算案などが審議され、質疑応答を経て原案通り満場一致で承認されました。

役員改選では執行部の一部は武家の都、古都鎌倉を世界遺産登録推進に向けて、学芸員の斎藤一真講師から理解を深めていただく講演が行われました。この運動には地域に根ざす高齢者の知識と経験を活用されたいものと結ばれ、満場の関心を呼びました。

市老連活動の報告と情報のコーナー

ゆめクラブ鎌倉の動き

部退任が承認されて、他の方は再任されました。元気な高齢者は地域においても、組織においても、いつでも健康で奉仕活動に、健康体操に、趣味の世界でも常に率先したいものです。団塊の世代を迎え、お互いに融合し仲間づくりに、新たな活動に、清新の気を取り入れたいものです。



楽しい頭の体操「麻雀教室」

脳の活性化を図ろう、手を動かし、視線の活動と瞬時の判断力を養おう、そして緊張感を解き放そう、これらを満たして明日への活力に資したい、などの思いが麻雀教室開講へのヒントとなって、この度の楽しい教室を開くことになりました。

麻雀は賭け事の対象としてのイメージが強く、賭けなければ...との印象が支配的でした。だが、これらを排して賭け事なし、金銭無関係、相互の親睦を打ち出しました。呼びかけが実り会員の理解を得てゆめクラブ鎌倉でのユニークな発案が実を結びました。

麻雀教室は、NPO法人健康麻将全国会の支部の主催で、今年の一月からはじまりました(手広西公会堂で月四回、火曜日午後一時から四時まで)。

四人ずつ二卓を囲んで講師の話に耳を傾け、講義とともに進行する黒板の文字を目で追いながら、手もとの牌を見比べて分かったような顔をしてうなづきながら、和やかに卓を囲んでいました。経験の有無にかかわらず、分かりやすく、その都度実際の牌に手を触れながらの説明を受けていました。ときどき巡回される助講師の方が親切に指で示して丹念に教えていました。

「ヤア」の声とともに「ロン」と張りのある声が出て手が挙がりました。講師が近づいて「やりましたね、キレイにあがっています。この場合にはこの牌を...」などと声をかけて周囲の人がのぞき込むところへ、牌を示して詳細な説明を加えて指導していました。

初心者も中級者も、時には首をかしげて「ハテナ」とやるとただちに講師が足を運んでくれます。どんなゲームか?からはじまって、あがり方、フリテン、一個縛り、ツモなど、基本四役など日を追って楽しさが増し、お互いの親睦感が増してくるようでした。

※サークルご希望の方は坂尻まで ☎ 三二一 二七七六 (都筑 健二)

市老連
春の研修旅行

春らんまんの南紀白浜・勝浦旅行

大船田園柏寿会 大久保安夫

四月の声を聞くと、なぜか心温かくパワーがでるようです。四月四日から六日まで、二泊三日の「ゆめクラブ鎌倉」春のバス旅行で南紀白浜と勝浦へ行きました。

ときおり富士山の頂上を

眺めながら東名高速道路を進み車中で昼食弁当を楽しみました。食べ終わった頃には進行方向の右側の空に黒い雲が出始めました。東名阪道を走行中に突然強い突風を受けて数回バスが横倒れしそうになったり、粉雪がチラチラしたりと自然の

力に驚きました。きつと沿線の満開の桜もびっくりました事でしょう。

白浜温泉の手前に円月島（えんげつとう）という珍しい島があります。正式には「高島」といい、臨海浦の南海上に浮かぶ南北一三〇メートル、東西三十五メートル、高さ二十五メートルの小島ですが、島



円月島

の中央には円月形の海蝕洞がぽっかりとあいていることから、円月島と呼ばれ白浜のシンボルとして親しまれています。日の沈む夕景の美しさは格別で、夏は六時三十分頃、冬は四時三十分頃の由です。

ホテルむさしの横には白良浜（はらはま）といわれる白い砂の海水浴場がありますが、砂が年々風や波にさらわれて減少するので、オーストラリアから運んでいるとの事ですが、昔の砂の白さは失われているそうです。

二日目は千畳敷の岩場を

観てから三段壁洞窟へ。ここは屏風のように濃緑の海に直立する、高さ四十二メートルの絶壁。そして、その岩層深くに眠る、かつては熊野水軍の船隠し場であった海蝕洞窟。ここは大自然のダイナミックな景観と千古の神秘、歴史ロマンに出会えるところで、洞窟へは三十六メートルのエレベーターに乗ります。

那智勝浦の世界遺産、那智御瀧は足の達者なグループが観光しました。朱塗りの美しい那智大社から望む那智御瀧（高さ一三三メートル）の美観は素晴らしかったです。大門坂も世界遺産で、紀伊山地の霊場と参詣道で熊野参詣道中遍路に



那智大社から那智御瀧を望む

なっています。

二泊目の宿泊先、ホテル浦島名物「忘帰洞」のお風呂は、大洞窟の迫力と荒波せまる太平洋の絶景を堪能し、その名の通り「家に帰るのを忘れてしまう」ほどの美しさで、旅の良き思い出となりました。

三日目は熊野速玉大社（はつたま）を参詣しましたが、ここも朱塗りの立派な社で、樹齢千年の国指定天然記念物「榎（え）」の大樹は熊野信仰の象徴となっています。

帰路、南紀の満開の桜並木をうっとり眺めていると、車窓に獅子そっくりな岩があり、車内の話題が一層盛り上がりました。

今回も楽しい思い出のバス旅行でした。



獅子岩

ゆめクラブ鎌倉 新事業をご紹介します！

Shall We Dance?

楽しく踊って
元気になるう
ふれあい鎌倉
ダンスパーティー
12月22日開催



6月1日チケット発売開始！
★参加費 900 円
★ご希望の方は
坂尻まで ☎ 31-2776

老人クラブは美容と健康、仲間づくり、会員の交流、そして親睦を深めることなどを目的に三年前からダンス教室をはじめました。

初めは「老人クラブがダンスをはじめなのか？」と不審の声もありましたが、三年目を迎えますと会員も口コミでそれなりに増えてきました。

初心者入門コースでは、『正しいダンス、正しい姿勢でやさしく踊る』をモットーにして楽しく教えて下さいます。興味のある人は、男と女がしなやかにふれあい、リズムにのって踊ってみませんか？ 若い人に負けない

よう元気老人の粋なところをみせたいものです。

今年は四年目『ふれあい鎌倉ダンスパーティー』と題して、十二月二十二日（出）、芸術館小ホールで老人クラブ連合会の一大イベントにして開催することになりました。

白石先生のワンポイントレッスンがあり、その他プロの方々のデモンストレーションが用意されています。新しい出会いを求めてそれだけに踊り楽しんでいただければ幸いです。

（坂尻正行）
◎講師
特定非営利活動法人
神奈川県 45 ダンス連合
理事長 白石 行雄
事務局長 北條 俊彦

らくらく 水中ウォーキング



泳げない…、でもプールには入れる方、膝や腰に負担をかけず、また体力に自信のない方でも安心です。水の抵抗や浮力を利用して楽しくウォーキングしてみませんか？

10月4日～11月1日
毎週木曜日に開催

お問い合わせは、ゆめクラブ鎌倉事務局まで！

鎌倉ケーブルテレビは **JCN 鎌倉** に変わります

今まで以上に地域密着のサービスを実現します

ゆめクラブ鎌倉とJCN鎌倉の共同制作番組

「**鎌倉 元気のススメ！**」

2007年6月スタート！ご期待ください

鎌倉市老人クラブ連合会の皆様 足利市への友好訪問 ありがとうございました

足利市老人クラブ連合会 副会長 渡辺 平治

平成18年12月6日、鎌倉市老人クラブ連合会の皆様
が姉妹都市である私たちの足利市へお出でになり、足利市
老人クラブ連合会と交流研修会を開催することができまし
た事、本当にありがとうございました。

研修会ではお互いに直面しているいろいろな問題を話し
合い、老人クラブの仲間づくりを基本とした生きがいと健
康づくりに取り組んでいる様子をお聞きし、大変参考にな
りました。

自らの生活を豊かにする楽しい活動を行うとともに、持
てる知識や経験を生かして地域を豊かにしようと努力され
ていることも良くわかりました。

生きがいのある日々をおくるための心構えや、地域の
人々への心遣いを図ることなども交流のために必要なこと
です。さらに高齢化が進み、老人は増えるのにクラブの会
員が減少するという逆転状況をどうするか、など会員の加
入促進運動を、どのように展開するかなど、これからの課
題も真剣に話し合い、クラブ活動のさらなる充実を図るこ
となど有意義な成果が得られ感謝しております。

また、健康、スポーツ、旅行などの取り組み方につい
ても参考になることが多く、これからのクラブ活動の活性化
について、意見の交換ができました。

平成19年5月17日に私たち足利市老人クラブ連合会
も、答礼の意味も込めて鎌倉市へ訪問する計画を立ててお
りますので、その節はまたいろいろなお話を聞かせていた
だけではないかと期待しております。

鎌倉市と足利市の姉妹都市締結は、今から25年前の昭
和57年4月であり、歴史の町、文化の町、観光の町など
いろいろな共通点のある両市は、交流と親睦を図り、新し
い町へと前進しているのです。

私たち老人クラブも新しい時代に即した体制で臨み、健
康で楽しく前進したいと思います。

まずは鎌倉市老人クラブ連合会の皆様の足利市訪問を深
く感謝して御礼を申し上げます。

「鎌倉市・足利市老人クラブ連合会」姉妹都市交流研修会



グループ討議で活発な意見交換
交流を深め、実りある一日に

昨年十二月六日、栃木県足利市
民会館で第一回目となる鎌倉市・
足利市老人クラブ連合会姉妹都市
交流研修会が開催されました。
鎌倉市老連からは、大久保会長
ら二十二名の理事、職員が出席。
足利市老連・田中会長はじめ足利
市老連の皆さんの温かい出迎えを
受け、交流研修会は和やかにス
タートしました。

はじめに両
市老連会長か
らあいさつが
あり、次いで
両市老連の事
業紹介に移り
ました。足利
市老連は二十
二地区、一九
六クラブ、一
〇六七一名の
会員(男三八
四六名、女八
八二五名)か
らなります。
足利市では
「元気老人課」
というよう
に、あえて「老
人」という言
葉を使ってい
ます。これ
は、「老」は
もともと「老
師」など年老いた人を敬うよい言
葉なので恥じることなく誇りを持
とう、という考えからです。
質疑応答、休憩ののち、老人ク
ラブの活性化についてグループ討
論会が行われ、昼食後に各グル
ープの発表がありました。
Aグループ 足利の「支部」と鎌
倉の「地区」は資金面、活動範囲
などで同様の性質を持っているこ
とがわかった。両市とも会員増強



温かい出迎えに心が和みました

のため最善策を見出しているが、
我々が活動を楽しんでいる様子を
見て加入してもらうのもよい方法
だ。
Bグループ 健康の秘訣は「食べ
る・動く・寝る」ことで、会員の
ためにも健康で活動することが大
事。足利市はカラオケ、グラウン
ドゴルフなど様々な活動の場を利
用して声をかけ会員募集に力を入
れている。
Cグループ
お年寄り一人ひ
とりが求めてい
ることを真剣に
考えて活動に取
り入れていくこ
とが老人クラブ
の活性化につな
がるのではない
か。
Dグループ
入会しても行事



様々な意見が飛び交ったグループ討議

に参加してくれないことや会員全
員に情報が行き渡らないことが悩
み。町内会や子供会など地域の団
体との交流やふれあいでも老人ク
ラブをPRしている。
Eグループ 後継者を取り入れる
ためには我々も青春の気持ちを持
たなければいけない。軽いスポー
ツなどを楽しみ健康に留意して活
動することが大切だ。
Fグループ 足利市は一つの単位
クラブの人数も多く、
お互いがお互いをよく
知っている。コミュニ
ケーションがうまくい
くことが会員の増強に
つながっているのでは
ないか。
発表後、コメンテ
ーターの久保会長は、
「高齢社会において
我々の活動は地域にな
くてはならないもの。

今日の研修会を糧に明日からの活
動に生かしていこう」と話され、
田中会長は「私たちが知恵をしぼ
り、しっかりと活動して若い世代を
取り入れていこう」と講評され、
終了となりました。
研修会後は、足利学校とそれに
隣接する鑊阿寺(ばくあじ)を見学して帰途に
つきました。



私たち高齢者にとって最も関心の高いものは「健康」と「仲間づくり」です。

当会はこのためクラブ活動に力を入れ、その充実を図っています。われわれの同好会の近況についてご紹介します。

(1) グラウンドゴルフ同好会
毎週月曜日午前中、住宅地内の公園を利用して練習し、近隣の老人クラブとの対抗親善試合、市老連主催の大会などに参加。

(2) 健康体操（やよい会）
毎週水曜日午後、地区内の自治会館で指導の先生方を迎えて楽しく汗を流しています。先生方は高齢者用



西鎌倉福寿会

何でもありの福寿会

羽鳥 光男

の無理のないメニューで教えて下さり好評です。

(3) 囲碁同好会（西月会）

毎週月曜日午後、段位者、級位者が対局を楽しんでいます。段位者による初心者、級位者への大盤での指導と解説など和気あいあいの中、切磋琢磨して、

対抗親善試合も盛んです。また、子供会のお母さんたちの協力で子供囲碁教室を毎週土曜日午後開催、会場は熱気にあふれます。

(4) かるた同好会（百人一首）
月一回、第一、三土曜日に椅子・テーブルで行います。足や膝腰の弱い人も参加でき、いながらにして遠



このほか、地域の学校の子どもたちとの囲碁交流会、高齢者と子どものペア基大会交流会などを開催しています。

(4) かるた同好会（百人一首）
月一回、第一、三土曜日に椅子・テーブルで行います。足や膝腰の弱い人も参加でき、いながらにして遠

このほか、地域の学校の子どもたちとの囲碁交流会、高齢者と子どものペア基大会交流会などを開催しています。

い往時をしのびながら雅びなゲームを楽しみます。また、春・秋には地域の中学生と「かるた」を通じ世代間交流をし、日頃なじみにくい古典に親しむきっかけになればと願っています。

(5) 麻雀同好会

賭けない、吸わない、飲まないを厳守。指導者を囲んで現在三卓で楽しんでいます。指を使い頭を使っても若さを保つのに有効です。

(6) 俳句同好会

月一回、同好が相寄り句会を開き、毎月発行の「会報」に掲載しています。

(7) 懇話会（おしゃべりサロン）
月一回、自由におしゃべりをしてストレス解消の井戸端会議です。

政治、経済、社会、文学、歴史から趣味や健康問題、買物情報まで、テーマは何でもあり。肩のこらない楽しいこのサロンは、五年休まず続いています。

このほか、不定期開催の「釣り同好会」もあります。いずれも会費は月三〇〇円、一五〇〇円。参加者は少ないところで五名、多いところ二十名以上、元気で楽しい仲間づくりに励んでいます。

住友常盤シニアの会は、発足が平成十三年と比較的に新しいクラブです。



構成メンバーは、昭和四十年末より五十年初頭にかけて、住友不動産により開発された住宅地の居住者ですが、現在、会員数は約一三〇名と当住宅地の世帯数約一八〇から見て、相当数の方々が加入されていることがお分かりになると思います。

発足当時、当住宅地の居住者全員に関係する問題が表面化し、それを契機に住宅地の清掃ボランティアの会（ミセスグリーン）が発足しました。そして、住宅地のコミュニケーションを密にしたいとの考えから、男子も参加した老人クラブ発足の提案がされて、

住友常盤シニアの会

地域との連携で成功

松本俊一郎

当会は順調なスタートを切りました。

当シニアの会も会員の平均年齢は七十

三歳と他のクラブ並みに高齢化は進んでいます

が、それに対応した生活環境をお互いに助けあって創っていきたいと考えます。

現在まで順調に歩んでいるのは、当住宅地自治会との連携協力、ミセスグリーンの会、フレンズ（子供会）との交流とともに、自発的に当会に協力くださっている

クに取り組むうちに仲間が増え、市老連主催の大会に出場するまでになり、現在も優勝を目指して頑張っています。また、「いきいき健康体操サークル」に参加して健康増進に励んでいます。

敬老会・新年会・花見会・旅行はもちろん、町内会の「ふらり会」の世話役を引き受け、多くの会員が参加。年二回のバス旅行を含め毎月開催しています。二月は三浦海岸の河津桜まつりに十八名が参加し満開の桜を楽しみました。このことが町内の親睦の輪になっており、今年で百回を迎えます。



を行っています。

このことが転機になり、グラウンドゴルフやペタン、入所者に指導

坂本町喜楽会

元気で頑張るわがクラブ

加藤 好雄

このことが転機になり、グラウンドゴルフやペタン、入所者に指導



松林の中の 知られざる別世界 鎌倉海濱ホテルを憶う



サナトリウムとして出現。早くも一年余でホテルに変身。湘南の帝国ホテルをめざしたが、経営はいつも難航。モダンな譲治もナオミも門構えを見て入館躊躇。歴史の蔭で外国人に愛され占拠されつつ、鎌倉文士は敬遠したらしい。

十九年間滞日した。彼は保養地として湘南地方を最適地とし、七里ヶ浜の景観を激賞、自身は葉山に別荘を所有し、高官たちも競って鎌倉に別荘を建てた。

明治四年からの岩倉使節団で医事行政担当で参加した専齋は帰国後、文部省医務局長・内務省衛生局長などに任ぜられ、米欧の休養地転地療法の視点を導入、自らは由比ヶ浜に別荘を持った。二年のち十九年横浜の富豪(茂木等)に出資させ、開業医(近藤)を院長とし、外人コックも高給で雇い入れて発起人となって保養所海浜院サナトリウムを自らの別荘の並びに開いた。

海水浴は当時「塩湯治」「海湯治」と呼ばれ、海水に浸り波に打たれ皮膚を鍛えるのが目的で医師が付きつきり、時間は厳格食事は豪華、遊戯施設も備わっていたが、かなり高価で特権階級でなければ利用できなかった。従って海水浴シーズン以外は流行らず、早くも二十一年には海浜院ホテルと変身する。

二十二年の横須賀線開通でさらに別荘地・保養地としての名も高まり、転換後二、三年は外人客を中心に盛況だったようだが、やはり帝国ホテル並みの料金ではお客に限りがあり、活況は長続きしなかった。

二十九年横浜のイギリス人機械商ヒーリングと友人の外国人たちが出資し、世界的建築家コンドル(鹿嶋計)による設計で改築する積極策を打ち出す。

この年の原敬日記に「海浜院へ赴き取調べものをなしつつ休養せり、宿泊人は外国人のみにて頗る静閑なり」とある。こうして二、三年は繁昌したが世の不況で、支配人もフランス人に変わったりしたが、増改築の後遺症で年二万円の赤字続きで明治屋副社長(長瀬部)に一切を譲る。三十年頃には小泉八雲が、四十一年夏には細菌学者R・コッホ夫妻が泊まった。この後大正五年七万円で明治屋傍系中央亭が債権でおさえ、明治屋松方乙彦と茂木惣兵衛(前出)、それに外国人も加えた株主三十人で資本金六十万円に増資し、「株式会社鎌倉海濱ホテル」と改称し再出発。折しもロシア革命で資産階級・要人の亡命者が長期滞滞して満室が続いた。

当時玄關脇の野間西洋洗濯屋に下宿していた芥川龍之介は許嫁への手紙に、「鎌倉は異人が大ぜい来ています。夕方に彼等が散歩して

による設計で改築する積極策を打ち出す。



写真提供：中央図書館



コンドル設計の正面

二度も往ったりきたりした末に、とうとう土地では二流か三流の金波館へ行くことになったのです」とあり、谷崎にとつても近寄りにくい構えだったのである。

昭和二年横光利一は新婚旅行で泊まった。偶々佐佐木茂索が原稿を書いている部屋に一張羅のモーニング姿でステッキを持ち、高島田の少々崩れた新妻を連れて現れたとある。

彼がホテルの食堂では金がかかるので、使用人たちの賄をしていた人の好意で女中たちと同じものを朝晩六十銭で取り扱ってもらった(下宿代は十円)。

この頃世界大戦により景気がよくなり営業成績も良好で九年にバス付客室を二十四増やす。これをみて安田・浅野財閥が海岸埋立によりホテルを建てようと画策したが、町会・同人会の反対の自然保護の運動があり取り下げたという。

大正十二年の震災は、松林の砂丘が高台にあり、海水をかぶらなかつた。建物は全館破損、倒壊には至らず修理して半年後には復旧工事にかかり同業者に先立ち開業できた。

「痴人の愛」(T13)の文中に、「鎌倉では三橋(名)にしようか思いきって海浜ホテルに泊ろうかなどと：先ず門構えの厳めしいのに圧迫されて、長谷の通りを

マナーを学んだ。ある時食事中皿を持ち去られそうになった番頭が「ねえちゃん、俺まだ食べてんだ。ちょっと待って：」と大声を発し、祖母

にたしなめられた情景を覚えている。豊島屋の三代目久保田氏もよく訪れた体験をもっておられるが、やはり幼くしてマナーを学び、格式の高いダイニングだったという。氏も砂丘の上のあずま屋で、S・K・D(松竹歌劇団)の江戸川蘭子が白いドレスで歩いていた姿を見たといわれるが、私は漫談家の大辻司郎がいて色紙に似顔絵を描いてもらった思い出がある。

私は幼少時より材木座の海辺になじんだので、人一倍やわらかいざくざくとした白い砂に失われた海岸とともに懐旧の念にかられる。

独歩の「運命論者」(M45)にも、『砂山が崩れてその下は崖のようになり、その根方に両足を投げ出すと背中が砂山にもたれて、まるでソファに倚ったような場所を探し当てた』とあるが、年月は大分経ているがこのホテルの前の情景は私の記憶と重なっているのだ。

私がはじめて行った十三年頃は、ファシスト党の黒シャツ姿のイタリイ使節団が宿泊したり、ヒットラーの親衛青年組織(ユーゲン

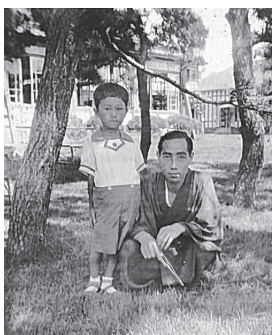


昭和13年、海岸橋を渡ってホテルへ(番頭・小僧さん)を連れて

ト)が四泊したりしていた。のち第二次世界大戦が始まり、ドイツ人がロシア経由で帰れなくなり、長逗留も増え、ホテルは繁昌していたようだ。十八年以降はホテルの機能はなく、終戦後は進駐軍に接収され、終戦の年クリスマス・イブに使用を禁止されていたストーブを米兵が倒し出火、主要な建物を焼失した。

ホテルは二度と再建されず長い間砂地雑草で格好の草野球のグラウンドだった。

五十一年キリンビールをバックとして、鎌倉シーサイドテニスクラブが発足、今十二面のコートで球を打つ音と声で賑やかだ。当時の面影を保っているのは、正面入口、鈴木屋酒店の前の三本の松のみである。



昭和13年、ホテル庭(番頭さんと)

滑川の東地域を書いた「失われた海岸、やわらかい白い砂」、やまもも54号もお持ちの方は併せてお読み下さい。(K)

会員投稿のコーナー

自然の美しさは人々の心と調和する

そのなかで、まず彼の墓を探した。約千人の音楽家が眠っているという広大な中央墓地を訪れた。そこに

は、彼が使用していたピアノ・バイオリン・直筆の楽譜・肖像画などが陳列されていた。また、彼が洗礼を受けたという大聖堂（ドーム）をはじめ街中に多くの遺跡がみられる。

黄色い壁の生家の四階には、彼が使用していたピアノ・バイオリン・直筆の楽譜・肖像画などが陳列されていた。また、彼が洗礼を受けたという大聖堂（ドーム）をはじめ街中に多くの遺跡がみられる。

この楽聖と同じ一月二十七日生まれで、彼をこよなく愛する息子に先導され、妻と三人でその足跡をたずねる東欧の旅をした。

オーストリアの古都ザルツブルグは、モーツァルトゆかりの音楽の街で多くの遺跡がある。

オーストリアの古都ザルツブルグは、モーツァルトゆかりの音楽の街で多くの遺跡がある。

オーストリアの古都ザルツブルグは、モーツァルトゆかりの音楽の街で多くの遺跡がある。

昨年モーツァルトの生誕二五〇年ということで、日本でもいろいろな記念行事が行われていた。NHK（BS）では、毎朝その生涯と華麗なるメロディが紹介され、改めてその天才ぶりに驚嘆し、かつ楽しませてもらった。



東欧の町を訪ねて

笛田東芝珀桜会 原田 光

はベートーヴェン、シューベルト、ブラームス、ヨハン・シュトラウスなど世界的に著名な作曲家の墓が集められていた。その中央には、モーツァルトの大きな記念碑像がたてられていたが、墓はなかった。そこで、苦手の英語を頼りに、小雨の降るなか訪ね歩いて、やっとその墓地を探しあてた。訪れる人も少ない、寂れたサンクト・マルクス墓地に、彼は一七九一年、三十五歳の若さでこの共同墓地に無縁仏のように、寂しく埋葬されたのである。

その墓は、故人の気持ちを象徴するかのよう、折れた石柱と小さな天使の像がベゴニアの花に囲まれていた。そのあまりにも寂し



モーツァルトが眠るサンクト・マルクス墓地にて

い終焉の地を前にして、私たちは万感の思いをこめて礼拝した。

アルプスやチロルをはじめ美しい湖畔の多いオーストリアの大自然は、前に訪れたスイス以上に変化に富んだ、素晴らしい美しさであった。しかも、とくに感心したのは山野をはじめ、どここの観光地や繁華街に行っても紙くずやゴミがほとんどみられなかったことである。その姿には、この国の人々の『モラルの高さ』を感じた。

学校・病院・医療などがすべて無料、国民はみんな年間三週間の休暇を必ず取得し、残業はしない

毎日など、何よりも個人の生活や家庭を第一にするお国柄のようである。

北海道とほぼ同じ面積しかなく、山野（七〇％）の多いこの土地でありながら、この国の人々のこの人生観や生活のあり方など、経済大国日本と離れた私たちが、いっしょに忘れてしまった大切なものをあらためて強く教えられる思いであった。

チロルの小さな美しい町・ハイリンブルート（標高一三〇〇メートル）の立派なホテルに宿泊した。翌日早朝、散歩に出たとき、すでに道路の清掃をしている町の人々の姿を目撃した。

また、一九九七年に世界遺産となった湖畔の町、ハルシュタットの美しさは、湖の風景だけではない。歴史ある小さな教会と同じ時を刻んできた町並み、それに調和した生活をしている住民の姿にあった。

日本の象徴とされるあの『富士山』が、ゴミの多さで世界遺産に承認されないこの現実を考えると、恥ずかしくて言葉もない。

ミュンヘンからチロルに向かうとき、ドイツの有名なアウトバーンをバスで疾走した。そのとき驚いたのは、よく整備されたこの高速道路が「速度無制限、無料、さらに飲酒の制限もなし」だということ。これは安全運転の限界を各個人が自制できるのだというゲルマン民族の合理性と自制力にあるようである。

わが国の最近の飲酒運転による事故の多さと規制の現状を思うと恥ずかしい。

チェコ・スロバキアの素晴らしい、千年の歴史をもつプラハ城・旧市街・カレル橋（十五世紀・五〇〇メートル）などの有名な世界

遺産だけでなく、『豊かな心』を感じさせられる多くの人々にめぐりあった。

それは、近隣の国々に翻弄された長い歴史のなかに培われた『真実は勝つ』という観念が、国旗とともに国民の心の奥底にあるからにちがいない。

生活のレベルは日本の三分の一と貧しくとも、素直で明るく、そして笑顔が美しかった。たずね歩く私たちに、どこの人々も親切に対応してくれた。

そこには、最近の世情をみるにつけ、日本人が忘れていている『心の豊かさ』と『優しさ』を強く感じた。カレル橋脇で行われていた結婚式は、素朴だが愛情豊かで、路行く人々も一緒に温かな祝福の拍手を送っていた。

地下鉄の車内でも誰もが笑顔で親切に対応してくれたのである。

また、横断歩道でもないところを渡ろうとしている私たちを数台の車が、じっと笑顔でいつまでも待っていてくれるのである。

世界遺産登録に立候補する『わが町・鎌倉』にとっても、心して他山の石とすべきものが多いと感じた東欧の旅であった。



美しいザルツブルグの街並み

高齢者サービスのご案内

高齢者割引乗車証等購入費を助成します

鎌倉市では、市内を運行するバス会社が販売する高齢者向けバス乗車証（神奈中バス「かなちゃん手形」、江ノ電バス「オレンジワンコインバス」、京急バス「ふれあいバス」、江ノ島電鉄が販売する「おでかけ電車回数券」、湘南モノレールが販売する「はやかごモノレール回数券」と、共通バスカード（対象は 5,000 円券）のいずれかの商品を購入する際に、1 人年 1 回代金の一部（2,000 円）を助成しています。

事業の概要は、次のとおりです。

- 対象となる方 平成 19 年 5 月 1 日現在、75 歳以上でかつ鎌倉市内に住所を有するかた。対象となるかたには、市から 5 月末日までに「助成券」をお送りします。なお、5 月 1 日以降、75 歳になられるかたについては翌年度の対象となります。
- 購入できる期間 平成 19 年 6 月 1 日から 12 月 31 日まで。
一部乗車証については、販売日等の指定がありますので、ご注意ください。
なお、20 年 1 月からの利用開始日分については 12 月中に購入してください。
- 助成額 1 人年 1 回に限り 2,000 円

《販売場所および問い合わせ先》

| 会社名 | 販 売 場 所 | 問い合わせ先 |
|---------|---|--|
| 江ノ電バス | ●鎌倉市内各営業所 ●鎌倉市内各販売所 | (本社) 0466(24)2714 |
| 神奈中バス | ●大船駅西口サービスセンター ●大船駅東口サービスセンター | 0467(43)5698 045(891)3843 |
| 京急バス | ●鎌倉営業所(当日渡し) ●鎌倉駅前販売所(翌日以降の渡し) ●京急バス案内所・JR大船駅階段下1階バスミナ出入口並び | (鎌倉営業所) 0467(23)2553 (大船案内所) 0467(48)5163 |
| | ☆共通バスカードは上記の各販売所でお買い求めください。 | |
| 江ノ電電車 | 江ノ島電鉄の次の駅 鎌倉・長谷・極楽寺・榎村・力崎・七里ガ浜・腰越 | (本社) 0466(24)2713 |
| 湘南モノレール | ●湘南モノレール大船駅 ●深沢本社業務課(9～17時、土日祝祭日等を除く) | 0467(45)0135 0467(45)3185 |

- 注意事項 購入した乗車証、バスカード及び回数券は払戻し・返品できませんので、よく確認して購入してください。市から送られた助成券は、本人以外の使用及び他人に貸与または譲渡することはできません。

※助成券のお取り扱いには、十分ご注意ください。
高齢者福祉課高齢者活動担当
☎(61)3930

《助成対象となるバス乗車証、共通バスカードおよび江ノ電電車、モノレール回数券の概要》

| 会社名 | 乗車証名称 | 利用運賃等 | 券種と助成前の額 | 購入時に必要なもの |
|---------|--------------|--|--|--|
| 江ノ電バス | オレンジワンコインバス | 運賃(1乗車毎に)現金100円 *空港バス・定期遊覧・貸切バスを除く | 3ヵ月(3,000円) 6ヵ月(5,000円) (随時販売) | ●助成券 ●本人確認書類(免許証・保険証等) |
| 神奈中バス | かなちゃん手形 | 運賃(1乗車毎に)現金100円 *空港バス・高速バス・深夜急行バス等を除く | 3ヵ月(3,000円) 6ヵ月(5,000円) 1 年(9,000円) (販売日・有効期限日が決まっています)※1 | ●助成券 ●本人確認書類(免許証・保険証等) ●顔写真(脱帽・1年以内・25mm×25mm) 本人のみ購入可能 |
| 京急バス | ふれあいバス | 運賃(1乗車毎に)支払いなし *空港バス・高速バス・深夜急行バス等を除く | 3ヵ月(12,000円) 6ヵ月(20,000円) (6ヵ月券は販売日・有効期限日が決まっています)※2 | ●助成券 ●本人確認書類(免許証・保険証等) ●顔写真(脱帽・1年以内・24mm×30mm) |
| 共通バスカード | | バスカードによる支払 | 5,000円(随時販売)(券種5,000円券のみ対象) | ●助成券 ●本人確認書類(免許証・保険証等) |
| 江ノ電電車 | おでかけ電車回数券 | 回数券による支払 | 5,000円(随時販売)(回数券の有効期限は、購入日から平成20年5月31日までです) | ●助成券 ●本人確認書類(免許証・保険証等) |
| 湘南モノレール | はやかごモノレール回数券 | 回数券による支払 | 5,000円(随時販売)(回数券の有効期限は、購入日から平成20年5月31日までです) | ●助成券 ●本人確認書類(免許証・保険証等) |

※1【神奈中】三ヵ月券、六ヵ月券、一年券とも利用開始日は七月一日、十月一日、一月一日です。七月分は、六月二十一日から八月末まで、十月分は、九月十日から十一月末まで、一月分は、十二月二十一日から同月の三十一日まで、購入できます。なお同会社の券は、利用開始日を待たず購入日から使用できます。一月からの利用開始日分については十二月中に購入してください。
※2【京急】三ヵ月券は随時購入できます。六ヵ月券の利用開始日は七月一日、一月一日で、利用開始日の一ヵ月前から購入できます。一月からの分は十二月中に購入してください。

◆詳細については、上記の問い合わせ先におたずねください。

会員文芸

俳句

七里ガ浜句会 阿部 弥生
息切らし峠に立てば梅の里
カーテンを洗って春の風入る
七里ガ浜句会 加野 ヨウ
ブランコを漕ぐも思案の定まらず
佛の灯籠の灯佛間華やげり
七里ガ浜句会 倉本 ふじ
風あげて原っぱ馳けて暮れし日日
新漬けの旬菜の香り春惜しむ
七里ガ浜句会 下條八州男
惜春や古着一枚捨てかねて
春愁のブルース午後のカフェかな
七里ガ浜句会 敦賀 笑子
墓参りあちこち目につく辛夷かな
重たげに馬酔木の花や春惜しむ

七里ガ浜句会 波木井みちる
ふくよかな稚児のほっぺや梅つぼみ
往きかえり夕暮れぶらんこのびる影
七里ガ浜句会 藤枝 笙
鞆の孫押す鈍き子守歌
鞆の擦れ違う都度声交す
七里ガ浜句会 松原 薫
春一番闇に膨らむ川面かな
日脚伸び薄暮の浜の白い月
七里ガ浜句会 棟渡登志子
砂文字をかけば現われ桜貝
春愁や雑踏にゐて人恋いし
七里ガ浜句会 米澤せつ子
朧夜の帰らぬ猫に戸を締めず
葛切を啜り花見の客となり
七里ガ浜句会 矢島 芳子
合掌を解きて梅見の人となり
能舞台耳にのこりし鼓のおぼろ

山ノ内梅鶯会 山下カヨ子
玄関の口ウ梅の香より梅の香に
藤垂れし転居の人の沙汰のなく
山ノ内梅鶯会 高橋 斌
病棟の冬空横切る鈴の綿
わび助に目白集いて山笑う
新鎌倉山笹りんどう会 中久喜たい
美しき初富士見たり船の旅
やぶ入りも過去の言葉となる昨今
浄明寺寿会 山本 照子
雛座敷子のいとけなき膝がしら
終電車ひびきて谷戸の花月夜

川柳

笛田東芝珀桜会 原田ダルマ
自分史に小さな華を添えて見る
初恋を聞かれる度に歳をとり
愚痴さえも楽しんでゐる老夫婦

鎌倉散歩

浄光明寺は定利氏
ゆかりの太寺だった



鎌倉駅西口から西大路を歩いて寿福寺、英勝寺、ちよつと戻って踏切を渡り、上杉管領跡の碑を見てすぐ右折すると、静寂で素敵な泉谷山浄光明寺である。庭内客殿奥の柏槇と槇の古木が目に入る。宗派は真言宗で本山が京都東山泉涌寺、六代執権北条長時が開基で、時頼とともに発願し建長三年（一二五一）、眞聖国師眞阿を開山住持として創建した。建武の中興以降足利氏との関係が深まった。中先代の乱の時鎌倉を追われた弟直義救援のため東下した尊氏が、朝廷に対し恭順の意を示して蟄居したのがこの寺で、以降直義は寺の興隆に力を尽くした。四世高慧の頃には支院も十近くあり、中世鎌倉教学の拠点となっていたという。

腰越の閑静な住宅街にお住まいの日浦マツエさんは、明治三十九年六月十一日生まれの一〇一歳。お会いした第一印象は「とても矍鑠としている」でした。健康の秘訣を尋ねると「よ



今号の やまももさん

新鎌倉山笹りんどう会
日浦マツエさん(101歳)

く歩きよく食べる」と教えてくれました。そんな日浦さんの日常は、早寝早起きはもちろん、朝晩の入浴を習慣としています。これには介護も必要なし。その元気の秘密は足腰にあるようです。元来からの足の強さは、九十二歳まで汗を流し楽しんでたゲートボールでも培われ、現在も家の階段の上

リ下りを繰り返して、体力を維持するよう努めています。一方、緑の多いペランダでは樹木の香りを浴びながら散歩や軽い体操をしています。この爽やかなひとときは、心が安らぐ何ものにも変えがたい時間だと語ります。部屋を見渡すと、欄間に腰越万福寺の「腰越状」が掲示されていました。鎌倉の歴史に親しみ古都を語るその趣きは、百年の歳月を経た人生の奥深さを感じました。若い者

を相手として、含蓄に富む見識の深さはまるで汲めども尽きぬ泉のよう。我々は終始頭の下がる思いでした。他にも長い間趣味として編み物と和裁を好み、家族の着衣はほとんど手作りだったと語ります。茶を点て、静かに人生を振り返るその瞳は、キラキラと輝いていました。

（対談者 都筑・中久喜）

◆スポンサー各位へ御礼◆

「やまもも」発行に際しご協賛いただきました各位に厚く御礼申し上げます。本紙は会員相互の交流と生きがい向上に、さらに内容の充実に励んでまいります。今後も倍旧のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。ゆめクラブ鎌倉

◆表紙の写真 段葛

海に近い石造の一の鳥居から八幡宮までの一直線に伸びる参道を若宮大路と称し、京都の朱雀大路にならって造られたといわれる。二の鳥居から太鼓橋に至る中央の一段高い参道は、昔、葛石を積み重ね並べていたため置石といい、古くは海岸まで続いていた。養和2年（1182）3月、源頼朝が妻政子の安産を祈って自ら指図し、北条時政をはじめ東国の武士たちが土石を運び、参道を築いたのである。段葛は鎌倉にだけ残る形式の古道で、国の史跡に指定されている。左右の堤には桜や躑躅が植えられ、花の季節は百花繚乱で目を楽ませる。（都筑健一）

原稿募集ー投稿規定ー

会員の皆様からのご投稿をお願いいたします。次号は、光明寺の「お十夜今昔」と「昔の鎌倉の小学校」を題材に募集いたします。

◆光明寺の「お十夜今昔」

光明寺境内の風物詩は今に面影を残し、大サーカスやいろいろな見世物小屋のことなどを、記憶にとどめる方も多いと思います。

◆昔の鎌倉の小学校

戦時中の闘争・分列行進・ゲートル巻での登校など。恩師や友人との思い出などは避け、社会背景のある情景スケッチが望まれます。何年頃と学校名も記入してください。

◆一般投稿について

短歌・俳句・川柳についてもご応募お待ちしております。

◎送り先は鎌倉市役所高齢者福祉課内老人クラブ連合会事務局（鎌倉市御

成町18-10）まで。

◎原稿締め切り 平成19年8月20日
◎紙面割りの都合で、原稿の採用内容の一部修正等についてはご一任願います。原稿等は返却いたしません。

編集後記

▼前号に「やまもも」と「ゆめクラブ鎌倉」へのご意見を募集しましたが、平素耳から入る声は多いのですが、文章になると数件のみでした。ご意見を寄せられた方には薄謝をお送りしました。▼今回は、岩波の定番頭であり名エッセイスト「小林勇」の幻のホテル「海浜ホテル」と、知っておいてほしい鎌倉の人と近代的史実を紹介しました。▼次回知らなかった「鎌倉」を解くキーワードは、「お十夜」と「鎌倉の昔の小学校」。短文スケッチです。是非奮って投稿して下さい。（K）